

編集後記

今年から茨城大学文藝部OBORGレーベルが始まりました。この企画の始まるきっかけは自らの軽はずみな発言からだたと記憶しているのですが、文藝部の今年度の執行部の方々及びMotto先輩を筆頭とした先輩方の多大な協力によって無事に創刊号を発行できることが出来ました。本当にありがとうございます。

形式ばった文章だけでも面白くないので近況報告をします。大学と文藝部から卒業して晴れて今年から社会人になりましたが、8月に指定難病に罹った為3か月ほど入院生活をしていました。退院した一日後に発作を起こして再入院したり、早朝から隣の患者さんが亡くなった為非常に重い雰囲気を感じたり、麻薬を打たないと緩和できないほどの激痛を体感するなど一般的な新卒社会人とは少し違う経験をしてきましたが、今では無事に社畜として納期に追われております。

入院生活では良い経験・悪い経験の両方がありました。が、やはり健康は損なわない方が良い為皆さんもくれぐれも健康に気を付けて日々をお過ごしください。

(黒猫)

この度、「イニシエイティブ」という素敵なタイトルを頂き、はじめて茨城大学文藝部のOBORGが主体となった新しい作品集を刊行することが出来ました。ご協力下さった現役および既卒文藝部員の皆様にご心より感謝申し上げます。

本作品集は、かつて茨城大学文藝部として活動した古いにしへの部員が再編集し、一連の作業をOBORGの手で行って完成させたものです。記念すべき第一号たる本誌の掲載作品は平成二十四年〜平成三十一年に入部された部員によって書き下ろされました。

今後書き手の年齢層が広がり、様々な視点からますます多彩な文学作品をお届け出来るようになること、そしてこの創刊が新たな伝説のはじまりとなることを、心より願ってやみません。

末筆となりますが、この三月に大学を卒業される皆様、ご卒業おめでとうございます。そして、こちら側へようこそ。

(Motto)